

中学校美術科教育における廃材を用いた

リユースアートの題材研究

—環境課題への造形的な考え方・表し方を深める試案—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（美術）

氏名 松木 恵子

本研究は、ウレタン廃材を用いたリユースアートの題材開発を行い、中学校美術科教育において実践し、生徒の環境意識向上を目指した。対象は岡崎市内の公立中学校の1・2年生で、造形おかざきっ子展への出品する半立体の制作を行う学習である。実践期間は、令和2年度での実践研究Ⅰ・基礎としてK中学校、令和3年度での実践研究Ⅱ・ⅢとしてS中学校において行った。

本研究の成果は、廃材を使用した題材の授業実践を通して、生徒の環境課題への意識向上に寄与できたことである。生徒が制作活動を通して、ウレタン素材の廃材を美術科で活用できる素材と認識できるようになり、他の廃材や身近な環境への意識を高めることができた。課題として、題材の特性上、廃材の元色への対処で授業時数を増すことが課題となった。より廃材の特性を生かした題材研究が必要である。そして、生徒が美術科教育で環境課題解決へ主体的に取り組める授業構成を探求していきたい。